

メディアが描く障がい者

小塚 **

**** KODUKA

中京大学現代社会学部現代社会学科
学籍番号 C11.....

1. はじめに

私が初めて障がい者という存在を意識しはじめたのは、中学生の頃だったように思う。通っていた小学校には障がい者学級はなく、中学校に上がって初めて障がい者学級とともに学生生活を送った。あまり深い関わりはなかったが、13歳の私が衝撃を受けたことは覚えている。しかし中学を卒業して以来、障がい者を特別に意識したことはなく、関わる機会もなかった。一方で、私の頭の中には「障がい者」というイメージは存在している。また多くの人にとっても障害者と接する期間は限られているか、もしくは全く接点がない人がほとんどだろう。にも関わらず「障がい者」に対するイメージはどこから来るのだろうか。「障害者」と言われ、人々はどのようなイメージを持っているのだろうか。私はメディアから受けている影響が大きいのではないかと思っている。とりわけ日常生活に浸透しているメディア、テレビからの影響は大きいのではないだろうか。

そこから障がい者を描いたテレビドラマを機軸にし、メディアにおける障がい者の描き方を見ていこうと思う。特に注目されたもの（視聴率）から流れの変化を見出す。社会にどのような影響をもたらしたのか、またどのような社会から影響を受けたのだろうか。障がい者を描いたメディアと現実の障害者との違いについても言及していきたい。

2. 障害者とは

しょう - がい【障害・障碍】

- 1) さわり。さまたげ。じゃま。「—を乗り越える」
- 2) 身体器官に何らかのさわりがあつて機能を果さないこと。「言語—」
- 3) 障害競走・障害物競走の略

日本における障害者の人数は、身体障害者が366.3万人、知的障害者は54.7万人、精神障害323.3万人とされている。総人口1000人あたりの人数で見ると、身体障害者29人、知的障害者は4人、精神障害者は25人となる。重複障害の場合もあるが、日本人の約5%がなんらかの障害を持っていることになる。

身体障害児・者	18歳以上	356.4万人	348.3万人	8.1万人
	合計	366.3万人(29人)	357.6万人(28人)	8.7万人(1人)
知的障害児・者	18歳未満	12.5万人	11.7万人	0.8万人
	18歳以上	41.0万人	29.0万人	12.0万人
	年齢不詳	1.2万人	1.2万人	0.0万人
	合計	54.7万人(4人)	41.9万人(3人)	12.8万人(1人)
		総数	外来患者	入院患者
精神障害者	20歳未満	17.8万人	17.4万人	0.4万人
	20歳以上	305.4万人	272.5万人	32.9万人
	年齢不詳	0.6万人	0.5万人	0.1万人
	合計	323.3万人(25人)	290.0万人(23人)	33.3万人(3人)

注1：()内数字は、総人口1,000人あたりの人数（平成17年国勢調査人口による）。

注2：精神障害者の数は、ICD10（国際疾病分類第10版）の「V精神及び行動の障害」から精神遅滞を除いた数に、てんかんとアルツハイマーの数を加えた患者数に対応している。

注3：身体障害児・者の施設入所者数には、高齢者関係施設入所者は含まれていない。

注4：四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。

平成23年度障害者白書

「障害者」という言葉は、1950年に施行された身体障害福祉法に“障害者”“障害”という言葉が明記されたのが始まりとされている。しかし一口に「障害者」と言っても、内実は人により異なった問題を抱えている。先天性障害、後天性障害などの経緯が違えば、その人にとって何が問題となるか、人によっても無論異なる。社会にさまざまな人々がいるように、「障害」にもさまざまなケースが存在している。

その事を踏まえた上で、大まかではあるが、本稿における「障害者」の定義をしたい。一般に障害者といえば障害者（18歳未満の場合は障害児、障礙者や障碍者とも表記する場合がある）とは、何らかの原因によって長期にわたり日常生活又は社会生活に相当な制限を受けざるを得ない人のこと。法律の定義上は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害者を含む。とされている。（ウィキペディア”障がい者”より引用）

本稿でも、上記に4つとその他の合計5つに区分し、分析を行う対象とする。

3. テレビ

テレビドラマを語るにおいて、まずその媒体であるテレビについての特徴・性質から見ていこう。テレビが戦後日本において、ひとつの社会的象徴として存在し続けている事は言うまでもないだろう。テレビは1953年にNIVから発売された。発売された当初、テレビの舞台は街頭だった。それはNIVが全国各地の街頭に宣伝を兼ねて設置したテレビ、もしくは電器店に置いてあるものであり、現在のように家庭には存在していない。視聴者は、“路上の群衆”となって当時もっとも効果的なメディアイベントであったプロレス、ひいては力道山を見守り、その画面に引き込まれ熱狂していった。そして50年代末には街頭から家庭へと普及していったとされる。その新しいテレビ文化に伴い番組内容も変更された。家庭内においてプロレスは影をひそめ、一方で美智子様の「御結婚」が日本の新しいメディアイベントとして取って代わっていった。同時に、家庭の中にテレビが普及したことによって、テレビとの関係で時間を経験するようになったと言われていた所以でもある。

以上のような歴史を持つテレビだが、「テレビはその社会的受容の局面において①<モノ>としてのテレビ②<放送>としてのテレビ③<番組>としてのテレビという三つの位相が相互に絡まりあった存在として理解できる。」『大衆文化とメディア』（吉見俊哉・土屋礼子責任編集、2010）

<モノとしてのテレビ>とは、テレビは空間的な意味を持ち、街頭テレビとして浸透した社会から家庭内へと普及していく社会において、空間的配置の要とされたことを言う。次の<放送としてのテレビ>とは、テレビ的時間の流れを創出したことに由来する。われわれはテレビを見ながら時間を把握しているのではないかという指摘である。例えば、ゴールデンアワー（午後7時から午後10時までの間の時間、視聴率が集中していることから）、モーニングアワー（午前7時から午前9時までの時間、登校・通勤と同じであることが特徴）アフタヌーンアワー（午前11時から午後2時までの時間、主に主婦・高齢者が

視聴者)などによって生活リズムを形成していることを言う。われわれは、晩ご飯の合間にニュースを見ているのではなく、ニュースの合間に晩ご飯を食べているのだ。最後の〈番組としてのテレビ〉とは、テレビが特定のジャンルを構成している点が挙げられる。テレビとは記号論的であり、さまざまな意味を問いつけられる存在なのだ。

今日テレビとは、新聞・雑誌・ラジオを含む、いわゆるマスコミ 4 媒体の中で、最も強力な伝達システムを持ったメディアだと言っても過言ではないだろう。それはテレビの持つ特性、視覚に訴える最もシンプルなものに人々は説得性を見出し、理解しやすいことに基づいている。同時に、こうした社会全体に情報が広がることそのものが伝達内容の重要度を高めているとされる。多数の人が同時に見ていることで価値が上がるのである。それが人々(社会)の一体感や共有感を導く社会的役割を果たしていると言えるだろう。共通の価値を内在化(社会化・教育)する役割も持った存在なのである。

しかしそのような役割を持っている一方で、テレビはどんな影響を社会ひいては個人に示すのであろうか。メディアとは人々に影響を及ぼす存在でなければならない。影響がないメディアとは、そもそも成り立っていないのである。しかし結論から言ってしまうと、テレビの社会的影響はこれだと確実に断言するのは非常に難しいのだ。2002 年 10 月テレビ 50 年調査によると、「テレビが世の中にもたらしてきた影響の大きさ」についての設問では、「非常に大きかった」56%、「大きかった」38%となっている。しかしこうした影響を社会全体に与えているといった具体的な直接の証明の方法は確立されていない。一方で、テレビが人々に与えた影響の方向性を提示した場合、例えばテレビは人々の言葉を乱れさせたかという設問に対して、「洗練させた」11%、「乱れさせた」34%、「どちらとも言えない」52%、「わからない・無回答」3%となっている。影響が大きいと 94%の人が思っているのに対して、どちらとも言えないが半数を占める状態となった。つまり具体的に考えると、影響に疑念が生じるようである。一概にテレビの影響は良い・悪いかの二択で判断できるものではないのだろう。

次に、個人への影響はどうだろうか。テレビの影響が大きいと 94%の人が前述した一方で、「自分自身への影響」という設問に対して、「非常に影響を受けた」9%、「ある程度影響を受けた」55%、「あまりない・まったくない」36%と、テレビが世の中にもたらした影響の大きさは随分異なっているのが見受けられる。しかし個人への影響でもっとも計りやすい、行動への影響を考えると別だ。その例として最たるものが、テレビに影響された行動として「放送内容をまねる」ことがある。2002 年 11 月のマスメディア調査によると、「テレビに登場した街や店にいった」34%(つまり 3 人に 1 人の割合)、「テレビに登場する人物のようになりたい」23%、「聞いた新しい言葉をすぐに使った」18%、などがあつた。また生き方・考え方への影響について調査した結果もある。「自分もあんな暮らしができればいいなとあこがれた番組」45%、「テレビで味わった感動を誰かれかまわず話したくなった」37%、「次回の放送を心の支えとしていた番組」33%、「自分の人生を変えたと思う番組」11%となっている。

4. テレビドラマ

次に、簡単にだが、ドラマの変遷を見ていきたい。ドラマがテレビ娯楽の一つとして確立されたのは 1960 年代と言われている。いわゆるゴールデンタイムの編成に組み込まれるようになったのがこの時期だ。以降、ドラマはテレビ娯楽の主流として、ある時は青春ドラマで若者を魅了し、ある時は恋愛ドラマやトレンドドラマで女性を興奮させ、またある時はホームドラマで奥さま方に感動の涙を流させ、様々なニーズに応えてきたのである。同時に多様なジャンルに細分化されてきた。70 年代初め、ホームドラマと時代劇が圧倒的な支持を集めていたとされる。ホームドラマとは、恋愛や結婚などを主題にししながら、それを取り巻く大家族を明るく描いたドラマの事を指す。これらの二つのジャンルがドラマ確立初期で支持されたのには理由がある。ホームドラマと時代劇の共通点とは何か。それは視聴者に「期待通り」を与えたことだ。この時代、人々は見たいものが見られることを求めているのだ。

しかし 70 年代半ばになると、ホームドラマは徐々に人気を失い、青春ドラマに人気を移す。また大家族ではなく、欠損家族と呼ばれるものが台頭してきたのだ。明るく安定した家族ではなく、どちらかと言えば暗く、現実に沿ったドラマが制作された。いよいよ 80 年代に入ってホームドラマは益々陰りを見せる。一方で、年代・世代を絞ったドラマが展開され始めた。視聴者自身が抱える問題とドラマ内の登場人物の問題をリークさせ、両者の間をより親密に魅せた。それを発展させたのが、88 年に始まったとされるトレンドドラマである。バブル崩壊と共に人気は衰退していき、愛憎ドラマが傾向として増えたとされる。

4. 1 障害者を描いたドラマ

ここでは主にテレビドラマから展開する。1990 年から 2010 年までの 20 年間に放送されたものを取り上げていく。連続ドラマ

を主体として考える。単発ドラマは含まない。また放送時間、放送日は問わない。視聴率の高いもの＝影響力が高いものとして考える。5年ずつに分け、5つの区分で（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の障害）最も平均視聴率の高い順から3つに視点を当てていく。

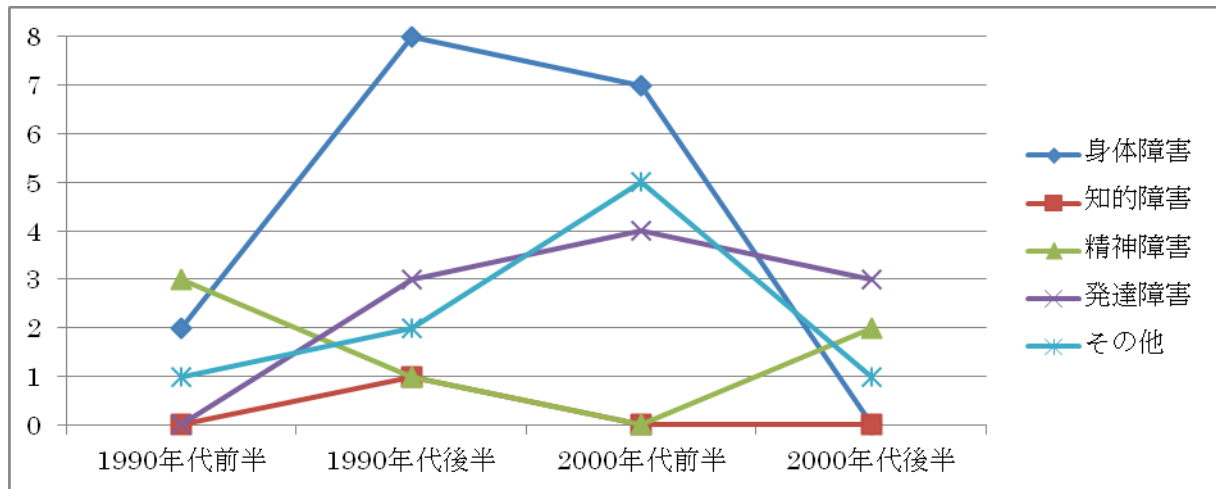
作中で「病気」「難病」となり、「(なんらかの) 障害者」になったドラマは省いて考える。

1990年から2010年までの間に、対象となったドラマは合計32作品。『TVガイド』、『週刊ザテレビジョン別冊連ドラ10年史』、『テレビドラマベスト・テン10年史1997～2006』に記載されている情報を元に集計した。視聴率データ (http://www.videor.co.jp/data/ratedata/r_index.htm)、テレビドラマデータベース (<http://www.tvdrama-db.com/>) なども参考にした。

以下、年代別に作品数・特徴・障害に関してまとめた表である。

	合計	特徴	身体障害のうちわけ	その他の障害
1990年代前半	6作	最も作品数が少ない 精神障害が最も多い	視覚障害1作 肢体不自由1作	記憶障害1作
1990年代後半	12作	恋愛ドラマが多数	視覚障害1作 聴覚障害4作 肢体不自由3作	なし
2000年代前半	17作	恋愛ドラマが多数 性別に関する障害が増えた	視覚障害3作 聴覚障害3作 肢体不自由2作	記憶障害1作 性別に関する障害4作
2000年代後半	8作	恋愛ドラマがない	なし	性別に関する障害1作

ドラマ年代別特徴と作品数表1



障害者ドラマ年代別推移表2

5. 身体障害

1990年前半◆「ひとつ屋根の下」(肢体不自由)フジテレビ 1993.04.12～06.28 平均視聴率28.2%

脚本：野島伸司、演出：永山耕三、中江功、プロデュース：大多亮

「ひとつ屋根の下2」(肢体不自由)フジテレビ 1997.04.14～06.30 平均視聴率26.7%

脚本：野島伸司、演出：永山耕三、武内英樹ほか、プロデュース：大多亮

ホームドラマ。その中で四男柏木文也が自動車事故で両膝関節を損傷し、車椅子で生活している姿が描かれている。事故以来ひきこもり気味であったが、兄弟と暮らしていくことで前向きになっていく。また、文也は絵描き才能を持っているが、盗作され自殺未遂を起こす青年として描かれている。続編では、視覚障害を患っている寺田奈美と文通をする姿が描かれている。しかし文也は奈美と会う際に自ら行かず、兄弟に代理を頼む。また奈美も代理を頼んでいた。障害者同士が交際することにつ

いて、本人たち、周りの葛藤が描かれている。後に車椅子の天才画家となった

1990 年後半◆「星の金貨」(聴覚障害) 日本テレビ 1995.04.12~07.12 平均視聴率 14.8%

脚本: 龍居由佳里、演出: 吉野洋、五木田亮一、猪股隆一、プロデュース: 梅原幹、佐藤敦

「続・星の金貨」(聴覚障害) 日本テレビ 1995.10.09~12.25 視聴率 22.2%

恋愛ドラマ。聾啞の少女、彩の恋人・秀一が記憶喪失になってしまったことから暗転する運命。次々降りかかる障害を越えて無償の愛を抱きつづける彩の姿が感動的。

2000 年前半◆「Beautiful Life ~ふたりでいた日々~」(肢体不自由)

TBS 2000.01.16~03.26 平均視聴率 32.3%

脚本: 北川悦吏子、演出: 生野慈朗、土井裕泰、プロデューサー: 生野慈朗、植田博樹

恋愛ドラマ。主人公町田杏子が難病に犯され、車椅子生活を余儀なくされている。バリアフリーという言葉が一般的になった功績は大きいものである。従来のテレビドラマでは障害者の内面を軸に描いていたものが多いが、車椅子で現代の社会生活を送ることについての困難さを描いている。

2000 年後半◆なし

身体障害は、1. 視覚障害、2. 聴覚障害・平衡機能障害、3. 音声・言語障害(咀嚼障害を含む)、4. 肢体不自由、5. 心臓・腎臓・呼吸器・膀胱・大腸・小腸・免疫等の内部障害の 5 つに分かれている。しかし内部障害に関するドラマは 1990 年から 2000 年の間にはひとつもなかった。また、恋愛ドラマは身体障害に関するものが傾向として多い。アプローチの仕方が多様であること、障害を挟むことでより恋愛のドラマチックさが増す、何より映像としてわかりやすいことが原因だと思われる。

6. 知的障害

1990 年代前半◆なし

1990 年代後半◆「聖者の行進」(知的障害) TBS 1998.01.09~03.27 平均視聴率 20.9%

脚本: 野島伸司、演出: 吉田健、松原浩、那須田淳

社会派ドラマ。障害者を積極的に雇用していた工場だが、その実態は暴行を繰り返していたとされる水戸事件を題材にした社会派ドラマ。主人公町田永遠が無邪気な純粋な心を持った知的障害者として描かれている。永遠が障害者という理由で弟が苛められていた。また永遠が働く工場には他にも同じハンディキャップを持った人たちが働いている。従業員高原鈴は重い知的障害を持っているが超感覚を持っているとされる。一方重度の知的障害を患っている登場人物も、欲望の抑制が効かないと描かれている。

2000 年代前半◆なし

2000 年代後半◆なし

表 2 でもわかる通り、明確に知的障害と書かれていたドラマは 36 作中、「聖者の行進」と「未成年(TBS 1995.10.13~12.22 平均視聴率 20.0%)」の 2 作しかなかった。両作とも、脚本は野島伸司氏である。

補足だが、自閉症を扱うドラマは、発達障害に区分される。自閉症は知的障害を伴う場合もあるが、発達障害のひとつである。知的障害を伴わない発達障害として、アスペルガー症候群などが挙げられる。「聖者の行進」の元となったのは、水戸事件と言われる。水戸事件とは、1991 年に発覚した知的障害者を雇用する段ボール製造会社「有限会社アカス紙器」で発生した虐待事件のことだ。「障害者雇用の優良企業」で、斡旋により知的障害者を雇用していた。知的障害者は住み込み部屋、一か月数千円の賃金で長時間労働を強いられ、虐待(暴行、性的虐待)も受けていた。また障害者雇用助成金受給を目標に、虚偽の申請をして、助成金をだましとっていた。しかし、詐欺罪のみで起訴された。虐待行為については全て不起訴となった。

7. 精神障害

1990 年代前半◆「あなただけ見えない」(精神障害/多重人格)

フジテレビ 1992.01.13~03.23 平均視聴率 16.3%

脚本: 吉本昌弘、瀧川晃代、演出: 楠田泰之、中島悟、柴崎正、プロデューサー: 楠田泰之、企画: 宅間秋史、清水賢治

サスペンスドラマ。主人公である弁護士青田和馬が精神障害者とされている。青田和馬は父親である青田三郎から受けていた虐待に耐えかね父を殺害。その際に第二人格高野淳平が生まれる。また青田和馬の父、青田三郎も精神障害者として描かれて

いる。多重人格、記憶障害などが物語りの中心に据えられている。

1990年代後半◆青の時代（精神障害/二重人格）TBS 1998. 07. 03～09. 11 平均視聴率 15.5%

脚本：小松江里子、演出：松原浩ほか

青春サスペンス。不良少年が少年犯罪を手がける弁護士の二重人格に苦しめられる。

2000年代前半◆サイコドクター（精神障害）日本テレビ 2002. 10. 09～12. 18 平均視聴率 9.1%

脚本：伴一彦、演出：水田伸生、萩野哲弘、相沢敦プロデューサー：西憲彦、高橋勝、

みずからも手を執拗に洗う「洗淨脅迫」を抱える精神科医が心理分析を駆使して心の病に悩む患者を救っていく。

2000年代後半◆ツレがうつになりまして。（精神障害/うつ病）

NHK 2009. 05. 29～06. 12 平均視聴率 7.03%

脚本：森岡利行、演出：合津直枝、佐藤善木、プロデューサー：合津直枝

1990年代前半、精神障害者を描くドラマが多くなったといっても、その内容は「あなただけ見えない」のような「二重人格/多重人格」ものが多かった。このころは、実直に言えば、「二重人格」という物珍しさ、人格が変わるキャラクター的な障害といった面に主に焦点を当てている。しかし 2012 年現在、精神障害と言えば「うつ病」「統合失調病」などが実に多様なケースがあり、社会問題となっている。それに伴い、最近では現実的な社会派ドラマとして描く事の方が重要視され、視聴者が求めているように思う。恋愛ドラマが少ないことも精神障害者を描いたドラマの特徴だと言える。しかし精神障害者という障害者は、病状から考慮して恋愛をしないことが多いだろうが、必ずしもそうではない。

8. 発達障害

1990年代前半◆なし

1990年代後半◆「ピュア pure」（発達障害/自閉症/サヴァン症候群）

フジテレビ 1996. 01. 18～03. 18 平均視聴率 23.4

脚本：龍居由佳里、橋部敦子、演出：中江功、田島大輔、澤田鎌作、プロデューサー：栗原美和子

芸術家とフリー記者の恋愛ドラマ。主人公折原優香が軽度の発達障害を患っている。一方でオブジェ作りにおいて卓越した才能を持っている姿が描かれている

2000年代前半◆天使が消えた街（発達障害/自閉症）日本テレビ 2000. 04. 12～06. 28 平均視聴率 14.5%

脚本：清水有生、演出：雨宮望、古賀倫明、萩野哲弘、プロデューサー：河野英裕

友人の借金を背負い、殴られ屋として生活していた達郎は、自閉症の兄・輝と出会い、少しずつ兄弟の絆を深めていく。

2000年代後半◆僕の歩く道（発達障害/自閉症）フジテレビ 2006. 10. 10～12. 19 平均視聴率 18.2%

脚本：橋部敦子、演出：星護、三宅喜重、河野圭太、プロデューサー：重松圭一、岩田祐二

社会派ドラマ。主人公大竹輝明が自閉症、知的障害として描かれている。ある物事に対して強いこだわりを見せる、記憶力が並外れている等の特徴が挙げられている。嘘をついてはいけなのに嘘をつかざる得ない状況に陥る輝明は苛立ち、混乱する。また作中で都子は結婚するが、「結婚」の意味が理解出来なく、戸惑う姿が丁寧に描かれている。一方で、兄妹が抱えていた輝明に対する確執を描く。

発達障害とは、乳児期から幼児期にかけてその特性が現れ始める発達遅延であり、高機能自閉症や学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）などの総称である。自閉症は、広汎性発達障害に分類されている。

やはり、ドラマが描く発達障害はほとんどが自閉症である。発達障害＝自閉症といった図がテレビ内、ひいては視聴者の間で出来ているのではないか。また、「自閉症」というひとつのキャラクターがすでにテレビには存在しているように思う。その起源は、映画「レインマン」でメディアに躍り出た。「レインマン」とは、1988年公開のアメリカ映画で、第61回アカデミー賞と第46回ゴールデングローブ賞、さらに第39回ベルリン国際映画祭においてそれぞれ作品賞を受賞した。自由奔放な青年と、重い自閉症（サヴァン症候群）の兄との出会いと人間としての変化を描いたヒューマンドラマである。「天使が消えた街」では、自閉症の兄と健常者の弟、「ピュア」ではサヴァン症候群として踏襲されている。キャラクターとしても、「純粋な」「特別な能力を持っている」等そのイメージが強い。しかし自閉症にサヴァン症候群が必ずしもあるわけではない。名前や能力だけが一人歩きしている顕著な例である。

9. その他の障害

1990年代前半◆「若者のすべて」（意識障害）フジテレビ 1994. 10. 19～12. 21 平均視聴率 16. 2%

脚本：岡田恵和、演出：中江功、木村達昭、臼井裕詞、プロデュース：亀山千広、杉尾敦弘

青春ドラマ。神奈川県川崎市を舞台にした幼馴染男女 6 人の青春／社会派ドラマである。幼馴染の一人、吉田守が意識障害とされている。2年前、主人公原島哲夫が経営する自動車の経営を助けようと上田武志と画策するが、失敗し、暴力団に激しい暴行を受ける。それが理由で半植物状態になってしまう。負い目を感じた武志は守のために生きていくことを決意し、街から姿を消す。劇中で回復するが、その後まもなく死亡。意識障害の守の病室には幼馴染が頻りに訪れ、こころの拠り所として描かれている。また原島哲夫の妹原島妙子は、両親の事故死を目撃して以来、自閉症を患っているとされる。しかし昨今の見解では、自閉症は先天的なものとされている。

1990年代後半◆なし

2000年代前半◆3年B組金八先生 第6シリーズ（性同一性障害）

TBS 2001. 10. 11～2002. 03. 28 平均視聴率 17. 1%

2000年代後半◆ラスト・フレンズ（性同一性障害）フジテレビ 2008. 04. 10～06. 26 平均視聴率 17. 7%

脚本：浅野妙子、演出：加藤裕将、西坂瑞城、プロデューサー：中野利幸

社会派ドラマ。5人のシェアハウスを通じて社会問題を描く。シェアハウスの住人、岸本瑠可が性同一性障害。主人公に友情とは異なる感情を抱いている。一方で友人だと思っていた男性に想いを寄せられ、落胆してしまう姿も描かれている。問題を抱える主人公とともにシェアハウスに住み、支えていくことを決意する。

その他の障害で特筆すべき点は、性同一性障害の社会的認知である。2000年代に入るまで、性別に関する障害というものはテレビドラマには描かれてこなかった。とくに2000年代前半においては、障害者を描いたドラマが多かった年でもあるが、性別に関するものが4作と過去最多となっている。この異常なまでの増え方の理由を今後調べていく予定だ。

10. 3種類の描き方

20年間の傾向としてまとめたものは以上である。上記から見ていった結果、近年のドラマはおおまかに3種類の描き方に分かれるように思う。

まず、恋愛ドラマにおいて描かれる身体障害などを「ストーリー型」と呼びたい。ストーリー型は、ストーリーを盛り上げるために描かれた障害者のことを指す。話の装置、通過点として働く。障害とは別に主題（恋愛ドラマやホームドラマなど）を置いてあるものを言う。次に、自閉症などにおける「キャラクター型」。ステレオタイプの描き方をしているドラマを指す。ある程度障害に対する社会認知もあり、メディア内で枠組みが出来上がっている状態。ストーリー型を内包している場合もある。違いが曖昧であるが、今後深めて定義していく予定である。最後は「模索型」である。模索型とは社会派ドラマなどで扱われる。枠組みができていない状態か、既存の枠組みとは違うアプローチの仕方を試みるドラマのことをいう。

この「ストーリー型」「キャラクター型」「模索型」は時系列順に並べることができる。ある障害の、ある症状がドラマの中でストーリーとして描かれ、社会的認知を得る。同時にキャラクターとしてある程度構成されていく。ストーリー型とキャラクター型は長い期間メディア内で生き続ける。しかしそれが飽和状態になったとき、社会が違うドラマを求めたときに、模索型は生まれる。従来の描き方とは違った試みを持つ。例えば、模索型として「僕の歩く道」「ツレが鬱になりまして」等が挙げられる。「僕の歩く道」の場合は自閉症としての描き方が飽和状態であり、「ツレが鬱になりまして」の場合は精神障害がドラマとしての振れ幅が少なく、そもそも飽和状態であった。そこに社会的ニーズを応えて作成されたと思われる。飽和状態と社会状態の一致が主な原因である。また同じ発達障害であっても自閉症は、この3つのタイプが比較的如実に出ている。1990年代後半の「ピュア pure」、2000年代前半の「天使が消えた街」の類型はストーリー型+キャラクター型といえよう。どちらかに分類するならば、比較的「ピュア pure」はストーリー型（主題が恋愛である点から）で、「天使が消えた街」がキャラクター型（主題ではなく、自閉症を持ったキャラクター自体を生かす点から）である。しかしそもそも両ドラマの起源、ひいてはメディアが描く自閉症の原点は映画「レインマン」であり、話の内容が酷似しているのも考慮したい。2000年代後半の「僕の歩く道」は典型的な模索型と思われる。ある程度キャラクター型が進んでいた発達障害の自閉症というカテゴリーから脱したものとして成り立っている。

11. むすび：研究成果（私の主張）

今後の課題としては、実際にここからある程度絞ってですが、ドラマ分析していこうと思います。同時にテレビ番組、テレ

ピドラマを分析しているテキストをいくつか読んで、分析の仕方がなにもわからないので学んでいきたいです。ほかにも大衆文化・大衆心理、メディア効果論、物語論の方面からもアプローチしていく予定です。

参考文献

- 吉見俊哉・土屋礼子責任編集（2010）『大衆文化とメディア』
NHK放送文化研究所編（2003）『テレビ視聴の50年』
『TVガイド』
『週刊ザテレビジョン別冊連ドラ10年史』
『テレビドラマベスト・テン10年史1997～2006』
視聴率データ (http://www.videor.co.jp/data/ratedata/r_index.htm)
テレビドラマデータベース (<http://www.tvdrama-db.com/>)

補記

90年代前半

◆1991

君だけに愛を（視覚障害）日本テレビ 01.12～03.23

◆1992

あなただけ見えない（精神障害/多重人格）フジテレビ 01.13～03.23 16.3%

◆1993

ジェラシー（精神障害/パーソナリティ障害）日本テレビ 01.06～03.24 最終16.0%

ひとつ屋根の下（肢体不自由）フジテレビ 04.12～06.28 28.2%

スキャンダル（精神障害/精神分裂病、統合失調症）フジテレビ 06.29～08.06

◆1994

若者のすべて（意識障害）フジテレビ 10.19～12.21 16.2%

90年代後半

◆1995

愛していると言ってくれ（聴覚障害）TBS 07.07～09.22 21.3% 第6回ドラマアカデミー賞優秀作品賞

星の金貨（聴覚障害）日本テレビ 04.12～07.12 14.8%

未成年（知的障害）TBS 10.13～12.22 20.0% 第7回ドラマアカデミー賞最優秀作品賞

◆1996

ピュア pure（発達障害）フジテレビ 01.18～03.18 23.4% 第8回ドラマアカデミー賞3位

オンリー・ユー～愛されて～（発達障害）よみうりテレビ 01.08～03.11 15.5%

白線流し（記憶障害）フジテレビ 01.11～03.21 10.9%

存在の深き眠り（精神障害/多重人格）NHK 04.03～05.08 12.5% 第9回ドラマアカデミー賞5位

続・星の金貨（聴覚障害）日本テレビ 10.09～12.25 22.2%

◆1997

ひとつ屋根の下2（肢体不自由）フジテレビ 04.14～06.30 26.7%

君の手がささやいている（聴覚障害）テレビ朝日 1997.12.15～2001.12.26

◆1998

聖者の行進（知的障害）TBS 01.09～03.27 20.9%

車いすの金メダル（肢体不自由）TBS 02.02～03.27 4.6%

ハルモニア この愛の滄て（言語障害）日本テレビ 07.11～09.12 13.8%

ふたつの愛（肢体不自由）NHK 08.26～09.30 7.9%

青の時代（精神障害/二重人格）TBS 1998.07.03～09.11 15.5%

◆1999

ハッピー 愛と感動の物語（視覚障害）テレビ東京 1999.04.14～06.23 7.6%

00年代前半

◆2000

Beautiful Life ～ふたりでいた日々～（肢体不自由）TBS 01.16～03.26 32.3%

29歳の憂うつ パラダイスサーティー（性同一性障害）テレビ朝日 04.22～07.01 7.5%

天使が消えた街（発達障害/自閉症）日本テレビ 04.12～06.28 14.5%

君が教えてくれたこと（発達障害/高機能自閉症）TBS 04.13～06.29 14.1%

多重人格サイコ-MAD-PSYCHO- 雨宮一彦の帰還（精神障害/二重人格、他）WOWOW 2000.05.02～2000.05.07

◆2001

新・星の金貨（聴覚障害）日本テレビ 04.25～06.27 14.7%

Pure Soul～君が僕を忘れても～（記憶障害）読売テレビ 04.09～06.25 10.6%

3年B組金八先生 第6シリーズ（性同一性障害）TBS 10.11～2002年03.28 17.1%

医者と患者（精神障害/多重人格）BSフジ 12.02～12.30

FACE・見知らぬ恋人（精神障害/二重人格）日本テレビ 01.10～03.07 9.8%

◆2002

アルジャーノンに花束を（発達障害）フジテレビ 10.08～12.17 10.8%

サイコドクター（精神障害）日本テレビ 10.09～12.18 9.06%

◆2003

ダンシングライフ（肢体不自由）TBS 05.05～06.06

盲導犬クイールの一生（視覚障害）NHK 06.16～07.28

◆2004

愛し君へ（視覚障害）フジテレビ 04.19～06.28 17.2%

仔犬のワルツ（視覚障害）日本テレビ 04.17～06.26 8.46%

オレンジデイズ（聴覚障害）TBS 04.11～06.20 17.40%

光とともに…（発達障害/自閉症）日本テレビ 04.14～06.23 15.47%

すずがくれた音（聴覚障害）TBS 09.06～10.15

00年代後半

◆2006

Replica（精神障害）フジテレビ 04.11～05.02

僕の歩く道（発達障害/自閉症）フジテレビ 10.10～12.19 18.2%

◆2008

だいすき!!（発達障害）TBS 01.17～03.20 11.4%

安宅家の人々（発達障害）東海テレビ 01.17～03.20 6.1%

ラスト・フレンズ（性同一性障害）フジテレビ 04.10～06.26 17.7%

ラブレター（聴覚障害）2008-2009年 TBS

◆2009

ツレがうつになりまして。（精神障害/うつ病）NHK 05.29～06.12 7.03%

チャレンジド（視覚障害）NHK 10.10～11.07 5.4%

10年

◆2010

ゲゲゲの女房（肢体不自由）NHK 03.29～09.25 18.6%

フリーター、家を買う。（精神障害/うつ病）FNS 10.19～12.21 17.14%

◆2011

ひとりじゃない（肢体不自由）BS フジテレビ 01.08～02.12

サイン（聴覚障害）毎日放送 01.19～03.16

Dr. 伊良部一郎（精神障害）テレビ朝日 01.30～03.27 7.04%

IS（アイエス）～男でも女でもない性～（性別に関する障害）テレビ東京 07.18～09.19 2.4%

毒姫とわたし（肢体不自由）東海テレビ 09.05～10.28 3.8%

ハガネの女 season2（発達障害/アスペルガー症候群）テレビ朝日 7.53%